

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024年度 第5回 学生交流委員会
議事次第

日 時：2025年2月7日（金）持ち回り開催

回答期限：2025年2月13日（木）正午

委員校：神戸常盤大学（委員長校）、神戸学院大学（副委員長校）

芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、
関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、
神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、
神戸女子短期大学、神戸親和大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、
流通科学大学

計 27 校

I. 審議事項

1. 2025年度 学生交流委員会 事業計画・予算（案）について（資料1）
 - ①<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施>WILL BE プロジェクト
 - ②<学生発信ブランディング>加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

標記に関し、中村理事長から各事業委員会に、資料1-1のとおり依頼があった。資料1-3の理事会からの改善提案をもとに作成した、資料1-2「2025年度事業計画（鑑）案」および「予算案」について審議。

II. 報告事項

1. 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」防災動画制作
及び被災地ワークショップ研修について（資料2）
活動進捗と能登半島（石川県七尾市、輪島市）での被災地ワークショップ研修の報告
2. 2025年兵庫県開催の全国コンソにおける
「コミュニケーションモール」を活用したパネル展示等について（資料3）
標記に関し、資料3の内容で加盟校担当者ならびに学生交流委員に案内開始したことについてご報告。出展を希望する学校は、学内にて調整の上、代表者がとりまとめて所定フォームよりエントリーください。申込締切：2025年2月26日（水）正午

III. 連絡・調整事項

1. 2024年度 学生交流委員会開催予定と主な議題について
第6回委員会：2024年度 事業報告・決算（案）について
オンラインにて2025年3月実施予定

以上

<資料一覧>

資料 1-1：2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

資料 1-2：2025 年度 学生交流委員会事業計画・予算（案）

資料 1-3：参考資料 2024 年度 各事業委員会の事業計画における自己評価・改善提案について

資料 2：若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」防災動画制作

及び被災地ワークショップ研修について（報告）

資料 3-1：「パネル展示」出展依頼について（お願い）

資料 3-2：「パネル展示」出展募集要項

2025年1月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中村 恵

2025年度事業計画・予算（案）及び2024年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、2025年度事業計画の作成にあたっては、2024年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2025年度事業計画・予算（案）及び2024年度事業報告・決算（案）の作成・提出
 - (1) 2025年度事業計画・予算【鑑】（案）
提出期限：2025年2月14日（金）正午
 - (2) 2025年度事業計画・予算【詳細】（案）
提出期限：2025年5月8日（木）正午
※第6回理事会(1/29)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。
委員会事業予算（総額）：600万
 - (3) 2024年度事業報告・決算（案）
提出期限：2025年3月27日（木）正午
2. 今後のスケジュール
 - (1) 「2025年度事業計画・予算（案）」
2025年3月17日 第7回理事会にて審議・決定
2025年6月（予定） 定時総会にて報告
 - (2) 「2024年度事業報告・決算（案）」
2025年4月（予定） 2025年度第1回理事会にて審議、定時総会に上程
2025年6月（予定） 定時総会にて審議・決定

（添付書類）

- ・添付1) 2024年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付2) 2025年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付3) 2024年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

【2025年度 学生交流委員会 事業計画】(案)

委員長校	神戸常盤大学
副委員長校	神戸学院大学
委員校 (全:27校)	芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
取組1	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施>WILL BE プロジェクト
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	参加加盟校数10校以上/年
取組2	<学生発信ブランディング>加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
達成目標	情報公開数200取組以上
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年

目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

【取組課題③】大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進

年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。
上記の体制の構築並びに、必要な新規のプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
予算額	取組1	テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」	1,050,000円
	取組2-1	学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	200,000円
	取組2-2	学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 SNS等での情報発信	4,769,100円 ※受託事業収入

期待される効果
<p>1.テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」 大学の枠を超えて、加盟校の学生たちが地域・企業との連携・協働するテーマ型の活動に取り組むことは、大学4年間の学生生活の充実に資する効果が期待できる。また、自らの経験を通じて、学生が地域の魅力や課題について、自ら考え、行動する力が育まれる機会を提供することは、地域で活躍する人材の育成に寄与する効果が期待できる。</p> <p>2-1.学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」 大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページを通じて、地域人材として学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に周知することは、大学が取り組む地域貢献の理解促進に寄与することが期待できる。</p> <p>2-2.学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 SNS等での情報発信 阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちがSNS等を活用した情報発信活動を実施することは、オールひょうごとして、兵庫県内外に防災・減災への意識向上や取組の活性化に寄与することが期待できる。</p>

2025年度 学生交流委員会 事業予算(案)

(単位：円)

	予算	各プログラム 予算						委員会 予算		
		取組1		取組2-1		取組2-2				
		内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額	
収入	会費収入	1,350,000	1,050,000		200,000				100,000	
	助成事業収入	0								
	受託事業収入	4,769,100					4,769,100			
	プログラム収入	0								
	雑収入	0								
	戻入金	0								
	計	6,119,100	1,050,000		200,000		4,769,100		100,000	
支出	会議費	40,000	交流会	30,000				会議費	10,000	
	旅費交通費	1,060,000	旅費交通費	50,000	旅費交通費	20,000	旅費交通費	980,000	旅費交通費	10,000
	通信運搬費	266,600	通信費・郵送費等	20,000	通信費・郵送費等	120,000	通信費等	96,600	通信費・郵送費等	30,000
	消耗品費	311,500	消耗品	30,000			消耗品	272,500	消耗品	9,000
	新聞図書費	0								
	印刷製本費	50,000	チラシ製作費等	50,000						
	光熱水料費	0								
	賃借料	440,000	会場費	250,000			会場費	180,000	会場費等	10,000
	保険料	0								
	謝金	0								
	租税公課	0								
	支払手数料	21,000	振込手数料等	20,000					振込手数料	1,000
	諸会費	50,000					全国コンソ等参加・広報	50,000		
	委託費	270,000			HP更新費等	60,000	HP更新等	180,000	各プログラムHP等に係る予備費	30,000
	人件費	3,010,000					職員賃金・通勤旅費他	3,010,000		
	接待交際費	0								
	支払支援金	600,000	学生企画経費等	600,000						
雑費	0									
計	6,119,100		1,050,000		200,000		4,769,100		100,000	

収入－支出	0
-------	---

2024年度事業委員会への改善提案について

※達成目標は中長期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

①国際交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	兵庫国際交流会館を拠点に、日本文化、就活、防災、ファシリテーションなどで、留学生を積極的に活動に取り込んでいることについては評価できる。留学生からのヒアリングを丁寧に継続するとともに、日本人学生との関わりもさらに補強してプログラム内容に盛り込むことを期待したい。また学生・留学生主体の企画にも引き続き重点をおき、さらなる内容と質が充実するよう、コーディネートを工夫することに期待する。留学生の日本定着を目指すにあたり日本人学生が果たす役割は大きい。英語が苦手な日本人学生にとっても留学生との交流は有益であるため、より視野の広いプログラム展開を期待したい。	①本プログラムへの参加を通して国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 2500名以上/5年	①94.2% ②参加者数 5562名/3年	参加者数 500名以上/年	参加者数 1552名/年
事業報告②	<加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業> ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	4	連携プログラム数の増加や新たな連携校（明石工業高等専門学校など）が増えているのは評価できる。今後もさらなる連携校を増やすべく、各大学の意見聴取を強化し、他大学の事情にあった連携プログラムを創出し、参加者の多様性の拡大を期待したい。	①本プログラムへの参加を通して国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 10件以上/5年	①98.6% ②プログラム数 11件/3年	プログラム数 2件/年	プログラム件数 6件/年

②学生交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動	2	2	加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、学業との両立（学校からの移動距離・授業時間等との兼ね合い）において、一部学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。		参加学生数のべ14名 （申込者28名・参加者11名）	参加団体5団体以上 個人参加15名以上	1団体2名参加 個人参加12名
事業報告②	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト	4	2	地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生の地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソ事業としてふさわしい関わり方を検討いただきたい。	参加学生数50名以上	参加学生数のべ82名 （参加者66名）	参加学生のチーム活動/月1回以上 （活動期間中）	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告③	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバビリオン」との連携～	4	3	加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2か年にわたり、単なるお祭りの交流活動にとどまらず、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会があれば、取り組んでいただきたい。		参加学生数のべ61名 （参加者30名）		月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告④	<学生発信ブランディング> 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	2	3	コンソHP上に「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活性化に取り組んでいただきたい。	情報公開数200取組以上	74取組/3年	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年	21取組（年内40取組掲載予定）/年
事業報告⑤	<学生発信ブランディング> 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	3	4	阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取り組みは、意義深い活動であると評価できる。次年度は、SNSを活用した情報発信活動の実施、また全国コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取り組みと共に、オールひょうごとして防災・減災への意識向上に向けて発信いただきたい。	参加加盟校数10校以上/年	加盟校参加数 6校	参加団体1団体以上 個人参加20名以上	個人参加11名

③教育連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	単位互換事業の実施	4	4	教育のICT化や共同開講など、学生への多様な学びの機会の提供について引き続き検討頂きたい。また、興味のある学生に情報が届くよう単位互換制度の認知度向上に向けて、広報について改めて検討頂きたい。	各年開放科目数10科目以上	128科目（18校）/年	送り出し校数・5校/年	11校（61名）/年 ※対面52名、オンデマンド9名
事業報告②	多様な学修機会の提供	4	4	継続的な加盟校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加盟校の公開講座を対面実施以外にもオンライン実施も含めて広く開放し、多様な学生の交流を促進し、学修経験の強化を引き続き図って頂きたい。eラーニングシステムについても、コロナ禍以後、オンライン学修やリメディアル教育など多様なニーズが生まれている。引き続き加盟校に周知を行い、加盟校全体のICTを活用した教育資源向上に期待している。	各年プログラム数5件以上	17件（7校）/年	参加者数50名以上/年	参加者数 1684名/年

④キャリア委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績	
事業報告①	大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	2	4	企業と大学をつなげ、教職員とコンソーシアムの関係を深めた点や、教職員に企業や法律家など、多角的な視点での情報提供ができたのは評価できる。加盟校を卒業した「先輩」が、県内企業に入社したきっかけを語る「先輩インタビュー」は、学生に地元就職を意識させる点で有効といえ、継続いただきたい。1～3月のキャリアイベント集客にも届結するが、次年度以降は、就職活動中の学生に発信内容を届ける一層の取組に期待したい。		①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 2500名（学生数2250名以上、教職員数250名以上）以上/5年	①88.3% ②参加者数 1598名/3年 （学生1192名、教職員406名）	各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上） ※事業報告①、②の合計	参加者数 156名/年 （学生64名・教職員92名）
事業報告②	「尼崎市」大学生等向け職場体験事業	4	4	尼崎市内企業への理解を深めた点、参加学生の満足度が非常に高かった点、自治体との連携が深まった点は評価できる。次年度は、自治体や企業ニーズをさらに踏まえ、日本人だけでなく、留学生も対象にした尼崎市内の職場体験事業も進めていきたい。当事業で得たノウハウを他の自治体に広めたり、コンソ事業に取り入れたりするなど、兵庫県全域のコンソとしてのプレゼンスの向上に繋げることを期待する。			参加者数15名以上（事業報告①の達成目標・各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上）を含む）	参加者数 87名/年 （学生64名・教職員23名）	
事業報告③	県内企業・団体等の魅力を情報発信	3	4	「WLB認定企業・表彰企業」「兵庫型奨学金返済支援制度導入企業」等、客観的な指標を一元化して掲載することにより、企業の比較や、企業研究の手助けになる点を評価したい。「兵庫型奨学金返済支援制度」については、産業界、自治体が地元就職促進を目的に始まった取り組みであり、学生に周知させることは意義深い。	情報公開企業・団体数120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載 2種類	
事業報告④	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	4	4	留学生61名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生がペア形式で参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多国籍環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加する中、早期離職が課題となっている。留学生が自身のアイデンティティを活かした就職・定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 2500名以上	①100% ②参加留学生数 2944名/3年	参加留学生数 500名以上	参加留学生数 774名/年	
事業報告⑤	外国人留学生採用ワンストップ支援事業	4	4	ひょうご留学生留學生インターンシップ参加学生の継続的な支援の場として機能していること、個々の留学生の特性に合わせた丁寧な支援により、内定者が出ていること、留学生の就職に繋がる関係機関とより実質的な連携が出来ていることは、評価できる。今後も、個々の留学生への丁寧な支援、企業の潜在的ニーズに繋がる丁寧なヒアリングと、多角的な視点での連携先の開拓や関係強化により、留学生の県内企業定着を促進することを期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名以上	①80% ②参加者数 214名/3年	参加者数 50名以上	参加者数 74名/年	

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

⑤ 高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」	4	4	兵庫県下の大学と高校の連携・接続に関する課題の共有、およびその課題について意見交換が継続的に行われている点については評価できる。引き続き、兵庫県下の高大連携を深め、人材育成の取組促進・人的ネットワークの構築を図るための活動を推進してほしい。	各年参加校数20校以上	参加校数 22校/年	意見交換会等の実施/年1回以上	意見交換会を1回実施
事業報告②	加盟校の魅力情報を発信	3	4	コンソHPでの情報発信や、県下の高等学校への情報共有など高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、オンラインはもちろん説明会やパンフレットなどのオフラインも併用しながら、高校の教職員・高校生・保護者への、加盟校の情報を発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上	情報提供先数 200か所以上/年 (兵庫県立学校長協会・県下高等学校への情報提供)	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	コンソHPへの情報掲載1回

⑥ FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開について、コンソーシアム内で情報共有の仕組みを構築し、通年を通して加盟校教職員の受講機会を提供し、教職員の資質向上に寄与できている点は評価できる。今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取組を進めていただきたい。	各年セミナー5件以上	9件(10校)のFD・SDセミナーを公開/年	参加者数 100人以上/年	参加者数 758人/年
事業報告②	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催	3	4	加盟校に共通する大学教育が直面する喫緊の課題について、加盟校のニーズを踏まえたセミナーに取り組んでいることは評価できる。FD・SD共通化への施策の検討を含めて、大学が単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義がある活動を推進いただきたい。	各年参加者数50名以上	参加者数 148名/年	開催数 3回以上/年	開催数 1回/年
事業報告③	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催	4	4	近年、重視されている認証評価・IRなどについて、体制作りから実質化まで苦慮されている加盟校の現状を踏まえたセミナーを継続的に実施できた点は評価できる。今後も加盟校のニーズを柔軟にとらえ、時宜にあった取組を検討いただきたい。		参加者数 149名/年		開催数 2回(実施予定含む)/年

⑦ 企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	3	4	兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育の取組促進、機運の醸成がコンソに対して期待される中で、本取組を継続できていることは評価できる。引き続き、先進事例や課題を共有し、加盟校が連携してリカレント教育の普及に寄与いただきたい。	①各年参加者数50名以上 ②各年10校以上	①2025年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定。参加者数は現時点未定 ②28校/年	大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①2024年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定(1回)
事業報告②	・大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 ・緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	4	4	企画運営委員会及び、ひょうご産官学連携協議会等での懇談については、次年度以降も定期的に実施し、産官学の連携体制の強化について、意見交換の場を設けていただきたい。次年度開催の全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに向けては、加盟校自身がコンソ活動への理解を深め、所属意識を高めながら、コンソ活動ならびに加盟校活動を他エリアのコンソ・大学に周知できる場をつくり出すことに期待している。また緊急時リスクマネジメント体制の構築については、定期的な見直し・改善を行い、より実践的な関係性構築に向け検討を重ねていただきたい。	①大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ②緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	①企画運営委員会、産官学連携協議会、産業界との協議・意見交換及び、企業課題解決プログラムの実施等により地方自治体・企業・地域団体との更なる連携を拡充した ②「リスクに関する情報連絡会」を開催、緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築した	①大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上) ②大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①企画運営委員会(原則月1回開催): 8回実施済(年度内計12回実施予定) 産官学連携協議会:1回実施済 (年度内計2回実施予定) 産業界との意見交換会:1回実施済 (年度内計2回実施予定) ②リスクに関する情報交換会:1回実施済 (11月末時点)
事業報告③	加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	事務局運営の効率化・プロセスの可視化・情報管理や共有に関しては、継続的な評価と改善を行い、最適な効率化を図る必要があるため、継続して取り組んでいただきたい。アンケート等で導き出された課題(コンソの認知度や関心)については適宜、企画運営委員会や各事業委員会等で協議しながら、各取り組みがよりよいものになるよう活かしていただきたい。また各ワーキングでの課題(全国コンソ、会費、リスクマネジメント・リカレント)について、導き出された解決策を具体的に運用することで、次年度以降のさらなる事業活性化・安定的な運営体制の構築を図っていただきたい。	加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築	コンソHPを活用し加盟校へ情報共有を行った。新たな取り組みとして「加盟校で働く教職員の方へ」のウェブページを新設し、各大学の教職員募集情報の一元化を実施した。 また企画運営委員会にてWGを設置、課題解決に向け議論を深めた。	企画運営委員会等における懇談の実施(年10回以上)	企画運営委員会(原則月1回開催): 8回実施済(年度内計12回実施予定) (11月末時点)

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

学生交流委員会

若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」防災動画制作
及び被災地ワークショップ研修について（報告）

1. 目的

阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、若者が次世代に震災の経験と教訓を継承していくことを目的とする。（兵庫県からの委託事業：リメンバー117プロジェクト）

2. 内容

プロジェクトに参画した学生たちが、震災の経験と教訓を繋ぐために、震災を知り学ぶと共に伝えたい教訓を台本にした動画を制作し、防災・減災啓発動画として配信する。

3. 活動期間

2024年10月～2025年3月末

4. 参加者

計12名

・学生：6校11名

（内訳）関西学院大学(4)・甲南大学(2)・神戸学院大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(2)、
神戸親和大学(1)・兵庫県立大学(1)

・動画制作プロデューサー：1名：株式会社令和の軍師 代表取締役 諸富 稜さん

5. 活動経緯

10月12日開催の第1回全体会議にて、各自が動画発信したい内容についてグループディスカッションを行い、導き出されたキーワードで4つのテーマに分類し、グループに班分けを行った。

その後、各グループ内でのオンラインミーティングや全4回の全体会議を経て、ナレーション台本の完成、画像や撮影イメージを確定。現在、能登半島ワークショップも含めた動画の素材集めを行っており、映像編集の過程を経て3月に動画公開を目指す。

6. 活動詳細

1) 全体会議と取材活動

開催回・月日	活動内容	詳細
第1回 10月12日	活動キックオフ ・伝えたい内容、キーワードによる班分け 各班の動画制作テーマの決定	<伝えるテーマ・教訓> 1班：震災の事前準備の重要性 2班：震災時に女性が直面する困難について 3班：日頃からできる防災対策 4班：阪神・淡路大震災から学ぶ自助と 共助の大切さの大切さ

開催回・月日	活動内容	詳細
第2回 11月5日	・各班のナレーション台本の共有、 意見交換と文章修正	冒頭の掴みや全体の流れ、分かりやすい表現や言い回しなど
第3回 12月2日	・取材活動（人と防災未来センター等）の 情報共有、台本の議論とブラッシュアップ	1班と3班の内容が一部重複するため、 台本を統合：命を守る震災への備え
第4回 12月20日	・ナレーション台本、音声の確定 ・撮影(映像)シーン一覧の作成	画像の収集方法と分類（外部から提供頂く 画像、フリー画像・イラスト、AI生成画像等）
第5回 1月8日	・シーン画像の収集方法や出典整理 （利用申請先）	提供依頼先の整理、画像生成アプリの準備
第6回 1月21日	・画像収集の方針決め、画像作成の進捗 確認	震災画像は主に神戸市等のオープンデータを使用、映像素材も可能なら一部適用検討

活動写真（全体会議、人と防災未来センターでの取材）



2)完成台本の構成（若者による教訓等の継承、3部構成10分の動画）

4班	1・3班	2班
助け合いで命を繋ぐ （阪神・淡路大震災の教訓から）	命を守るための震災への備え （事前準備の重要性）	災害時に女性が直面する困難 （社会の多様な人の権利）
甚大・悲惨な災害を知る	日頃からできる防災対策	災害時の女性の困難
自助から共助の大切さ	1つ目 家中の安全対策	1つ目 安全の問題
地域連携の強化、助け合い	2つ目 防災バッグの準備	2つ目 生理の問題
防災訓練参加の重要性(SNS活用)	3つ目 事前の行動計画を共有	社会の多様な人の困難を理解
意識や行動を変えよう！	今日から備えを始めよう！	自分事として捉え支え合おう！

3)被災地ワークショップ研修

【日時/場所】1月10日～12日 能登半島（石川県七尾市、輪島市）

【参加者】計5名

・学生：加盟校2校2名（関西学院大学(1)・兵庫県立大学(1)）

関西学院大学 法学部 金子実樹さん(3年生)、兵庫県立大学 理学部 武田尚也さん(2年生)

・動画制作プロデューサー：1名(令和の軍師 諸富 稜 さん)

・同行者：2名(神戸常盤大学 神戸常盤ボランティアセンター長 戸谷富江さん、コンソ事務局 大島)

【現地指導】被災地 NGO 協働センター* 能登事務所 統括スタッフ 増島智子さん(駐在)

一般社団法人四番隊 加藤弘嗣さん(駐在) *1995年1月19日設立(神戸市兵庫区、代表 頼政良太さん)

【概要】動画制作活動の一環として、学生が能登の被災状況(震災・豪雨)やボランティア活動を体験し、防災・減災を学び、震災の経験や教訓を伝える意味やその重要性などを研修した。被災地 NGO 協働センターの方々にご協力頂き、当日の天候は降雪も少なく2日間のボランティア活動と防災研修を無事に終えた。

【活動】足湯・仮設住宅へ物資配布・防災減災研修(七尾市中島町)、店舗内修復作業(輪島市)

【研修で学び/感じたこと】(抜粋)

- ・七尾市では、行政からの物資支給や復旧支援は限られ、住民や現場との信頼関係が崩れてしまっている。被災者の生活や住居などの課題も多く報道から見えない問題も知ることができた。
- ・能登半島には、地域特性もあるが、これまでの災害の教訓(阪神・淡路大震災や東日本大震災)は、備え、避難所運営、災害時の平等意識などに生かされていない。動画制作のモチベーションに繋がった。
- ・その地域の特性(風習、高齢化、過疎など)やリスクに合った備えや支援を検討していくことが大事。普段から地域や人との繋がりを大切に、また、被災後に人の支援の輪が広がる影響はとても大きい。



7. 今後の展開

1) 防災動画制作 参加学生による画像収集（フリー画像を含む）やAI 画像作成、映像編集の過程を経て3月に動画公開を目指す。

2) SNS 制作チーム発足 WEB メディアの取材編集・広報活動（期間 2025年2月～10月）

現在募集中（1月末時点で学生9名）で2月14日締切り、2月27日に兵庫県庁にてキックオフの予定。

以上

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
加盟校各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事務局長 山崎 智佳子

第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2025年兵庫県開催）
大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校「パネル展示」出展依頼について（お願い）

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「当コンソ」）が加盟する「全国大学コンソーシアム協議会」では、年に一度、「研究交流フォーラム」を開催し、全国各地の大学コンソーシアムに関する情報の集約と発信が行われています。2025年は本フォーラムを兵庫県で初開催（共催）することとなりました。

当コンソは2006年に任意団体として設立（2016年法人化）し、2025年は設立20年を迎える節目の年であり、産官学のオール兵庫で高等教育の発展に資するべく、全国の大学コンソーシアムの取り組みや研究成果等の情報交換を実施したく存じます。

つきましては、各加盟校におかれましては、本フォーラムへの積極的なご参加ならびに、本フォーラム会場（神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス）に開設予定の「パネル展示」へのご協力をお願いします。

※「全国大学コンソーシアム協議会」…日本における連携型の教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えのもとづくり設置。北海道から沖縄まで44団体が正会員として加盟（2025年1月末現在）。

記

1. 開催日時：

○全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

2025年8月30日（土）13：00～19：30（シンポジウム・情報交換会）

2025年8月31日（日）10：00～12：00（分科会）

○加盟校によるパネル展示

2025年8月30日（土）12：00～19：30

（展示時間）2025年8月30日（土）12：00～19：30

（コアタイム）2025年8月30日（土）15：10～16：30

2. 会場・展示場所：神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス D号館1階コミュニケーションモール

3. 展示テーマ・カテゴリ：

「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」をコンセプトに、「大学間連携」「産官学連携」「震災30年、阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学・学生の活動」の3分野から加盟校が希望するテーマ

4. 申し込み方法・締切：

別紙、出展募集要項を確認の上、所定のフォームより、お申込み下さい。

申込締切：2025年2月26日（水）正午

5. お問い合わせ先：

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 事務局

電話 078-271-0233 メール info@consortium-hyogo.jp

以上

2025年1月30日

第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(2025年兵庫県開催)
大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校「パネル展示」出展募集要項

1. 日時 2025年8月30日(土)12:00~19:30(コアタイム:15:10~16:30)
※上記時間において、各ブースの人員配置は必須ではありません
2. 会場 神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス D号館1階コミュニケーションモールほか
3. 展示テーマ
「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」
4. 展示カテゴリ 以下の3つの分野から、希望するテーマをお選びください。(複数選択可)

A「大学間連携」

- ・大学間の連携活動
(兵庫県内や兵庫県外の大学との連携活動)

B「産官学連携」

- ・大学の特徴的な先進事例、注力している事例等
(兵庫県外の自治体・企業との活動も可)
- ・大学では全国初の取組、新規性または伝統や地域に根差した取組、受賞経験など、
自学で打ち出したい内容。



会場のコミュニケーションモール

C「震災30年」阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ、大学の活動について

- ・阪神・淡路大震災を契機として、取り組みを続けている教育活動・研究などの紹介
- ・現在の自然災害に対する大学としての支援・ボランティアの取組紹介
- ・災害支援・防災活動など、当日、ブース出展して説明できる学生団体・ゼミ等も歓迎

5. 展示形式について

以下1~2より、お選びください。

展示形式は、なるべく各校のご希望に沿う展示方法が実現できるように調整します。

但し、会場スペースの関係上、ご希望する内容が困難な場合があります。

あらかじめ、ご了承の上、エントリーください。

1) ブース展示

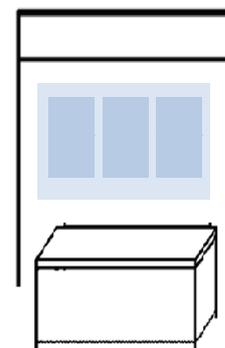
簡易ブースを設けての展示スタイルです。机とパネルを使って、展示いただけます。

(例)パネルにポスターを張り、机の上に説明用リーフレットや商材を置くなど。簡易なワークショップ体験等を提供したい場合は、形式と内容をお書きください。

※パネル(縦1800mm×横1200mm)・長机は無料で貸し出します。

<人員配置について>

- ① 学生・学生団体等によるブース対応も歓迎。
学生が自ら、全国各地の大学関係者等に活動紹介できる経験ができます。
学生への謝礼はありませんが、交通費は支給します。
- ② 当日、ブースには人員配置をせず、展示のみの出展もできます。



ブース展示イメージ

2) ポスター展示

ポスター掲示のみの参加もできます。

ポスターのみを事前送付ください。貼付場所は、事務局に一任ください。

6. 経費について

- 1) 展示物・備品について:出展校にてご負担ください
展示パネル・ポスターなど、展示物に係る製作費 ※既存作品の展示も可
テーブルクロスなど展示装飾、パソコンは各校にてご用意ください。
- 2) 会場にて準備しているもの
展示パネル・長机は無料でお貸しします。電源が必要な場合は別途ご相談ください。
- 3) 「パネル展示」の出展料について
出展料は無料です。
ただし、本フォーラムの基調講演・分科会・情報連絡会への参加については別途参加費が必要ですので、ご了承ください。

7. 申し込み方法

出展いただける学校は、以下申込フォームよりエントリーください。

第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 加盟校「パネル展示」出展エントリーフォーム
<https://forms.gle/nKbShNpT6S3oHgKx7>

【申込締切】2025年2月26日(水)正午

8. 今後のスケジュールについて(仮)

2025年1月30日～2月26日 :各校からの出展エントリー受付
2025年2月下旬～3月上旬 :各校の出展テーマ・展示形式(スペース含む)調整
2025年3月～5月 :各校の出展テーマ・展示形式(スペース含む)決定
広報リーフレット制作
研究交流フォーラムの広報(加盟校、賛助会員、行政等)開始

※上記日程は目安であり、変更する可能性があります

9. お問い合わせ先

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸事務局 中水
電話 078-271-0233 メール info@consortium-hyogo.jp

以上